

○事業所名	児童発達支援センターつくし学園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月24日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55 (回答者数)	35
○従業者評価実施期間	令和8年1月10日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもって楽しく通うことができる内容	まずは環境や職員に慣れて、楽しく療育に通うことを目標にしています。療育に慣れて課題に取り組むようになってからも、スモールステップで、お子様のその日の様子に合わせた課題の負荷調整を行い、少しでも「できた」という達成感を感じてもらえるように内容を工夫して行っています。	引き続き、安心感を持って楽しく通うことができる療育を行っていくとともに、専門性を高め、療育内容のさらなる充実をはかっていきます。
2	保護者のみなさんの思いに寄り添った支援	送迎時のご家族の方との情報交換、連絡帳による情報共有を大切に保護者のみなさんの思いや困り感をきちんと受け止めていきます。また定期的なさくらんぼ教室(年3回)以外にも面談やおしゃべりカフェ(子育て勉強会)を行い、子どもたち一人ひとりの発達について一緒に考えます。アットホームなつくし学園の強みをさらに高め、ご兄弟を含めた家族全体を支援していきます。	保護者のみなさんがより子育てに対して前向きになることができるよう、不安や心配ごとに対して丁寧にお話を伺うとともに、保護者交流の場を増やしていくことも検討しています。きょうだいの会、ナイスファミリーなど家族民で参加できる活動を開催します。
3	地域の中で育つ子どもとして、ライフステージに沿った支援	地域の中で育つ子どもとしての権利を保障し、将来にわたって地域で暮らし続けることをイメージしながら支援します。つくし学園だからできるのではなく、家庭の中でもできる方法を一緒に考えるため家庭訪問を実施したり、自宅での面談を実施します。	保育所、小学校、地域の関係機関との連携をさらに強化しそれぞれの暮らす地域での支援体制を強化します。社会福祉協議会の強みを活かし、地域にある社会資源を活用する機会を確保します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応に関する周知	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアルなど、職員へ周知徹底、訓練の実施をおこなっていますが、保護者の方への周知方法や掲示の仕方を工夫する必要があると感じます。	非常時の対応や訓練等の計画について、保護者向けの分かりやすい資料を作成し配布や掲示をして参ります。
2	SNSなどを使った情報の発信	業務においてもDXへの取り組みが進んでいない状況です。今後事業所全体としてICT導入への取組みなどを積極的に進めていく必要性を感じています。	園からのお知らせ文書は紙による発信となりますが、保護者のみなさまからの返信をQRコードを活用するなど少しずつ取り組んでいます。
3			